

「公共交通の活性化によって、皆が出かけたくなる街づくり」

(1) はじめに

我が国の公共交通の現状として、自動車の急速な普及に伴って、都市内のいたるところで渋滞などの混雑が発生している。これに対して、道路の整備が行われているが、そのわりに混雑の解消は進んでいない。道路を整備すると、確かに一時的に交通条件が改善されるものの、それを知ると、改善前は自動車を利用していなかった人々も新たに自動車を利用するようになるので、整備による効果は薄れてしまうのではないかと懸念される。自動車が增加すると、自動車ばかりが便利のように道路が整備され、そうすることでまた、自動車が增加するという、この繰り返しが、クルマ社会をどんどん発展させたといえる。

ここで、自動車を利用して移動するよりも、環境に配慮した公共交通機関の活性化を図ることが重要だと思われる。

(2) 公共交通へのシフト

自家用車の台数の推移は図 - 1 に示した通りである。平成 15 年度の自家用車台数は昭和 40 年度の 24.5 倍で、昭和 50 年度の 2.9 倍となっている。自家用車の普及によって公共交通の利用者数は減少し、その経営を圧迫している。多くの交通企業は、利用者が減少すると、運行頻度の減少と運賃の値上げを行い、それがさらなる利用者減少を招くという悪循環に陥っている。

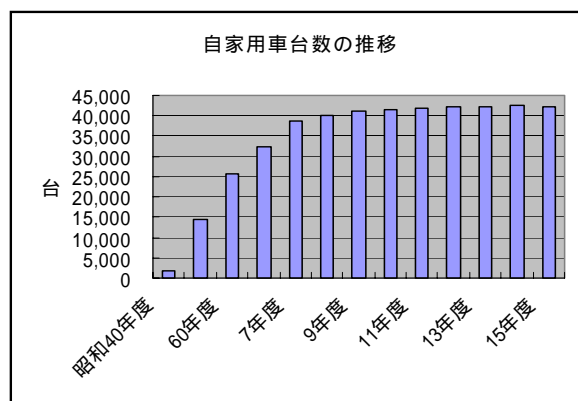


図 1 出典：国土交通省 陸運統計要覧

エネルギー多消費型の自動車から、環境配慮型交通手段（公共交通）へシフトさせていくためには、自動車を前提にしすぎた道路整備のあり方を改め、環境配慮型交通手段の利便性がこれ以上低下しないように努める必要がある。

そのためには、自動車の利用が多少不便になることを厭わない姿勢で、環境配慮型交通手段の利便性を可能な限り向上させる。

自動車特有の利便性にもかかわらず、人々がすすんで「公共交通機関を利用しよう」と考えるようになるためには、環境に配慮した人が正当に報われる程度まで運賃水準引き下げをするべきである。そうでなければ、「自家用車を有効利用したほうが得」という状況が続かないと考えられる。

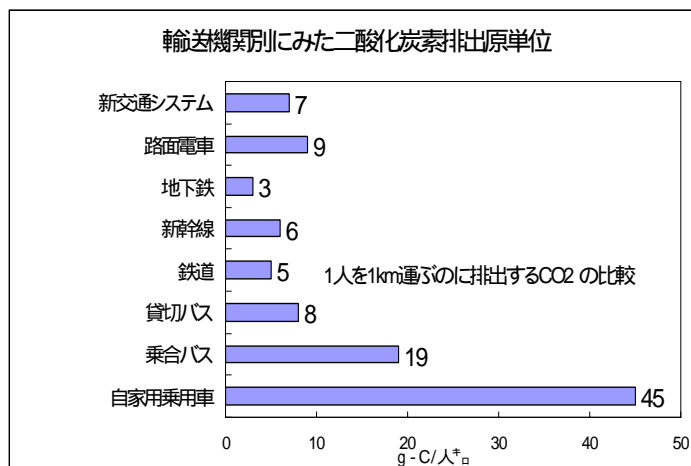


図 - 2 出典：平成 12 年版環境白書総説

(3) ドイツとの比較

ここで、50以上の都市で合計1500キロを超える路面電車が都市交通の中心的な役割を担って活躍しているという、ドイツを事例にあげてみる。ドイツ全体としては、従来の路面電車を活用し、地下化や専用軌道の建設、高性能車両の導入によるスピードアップ、停留場の改良などさまざまな近代化を行って競争力のある都市交通機関として成長させていった。具体的には、従来のドイツ鉄道では不便だった集落などにこまめに駅が新設し、駅によってはパーク・アンド・ライドの駐車場をホームに隣接した場所に設けた。これによって、周辺の市や村の住民のドイツ内での移動が非常に便利になった。実施以来、路面電車の乗客は5倍に増えた。このほか、日曜・祭日にはこの券一枚でおとな2人と子ども4人までが電車やバスに乗り放題できるシステムを含んだ、鉄道、路面電車、バス合計90路線、述べ2710キロメートルに共通して使える定期券を発売するなど、公共交通機関の利用促進には、利用しやすくなるような料金体系も重要な役割をはたす。これらのドイツの事例を参考に、街づくりを考えていく。バスという公共交通の利用促進を図る一つの案として、需要にあわせて運行するサービスをあげたい。基本路線の外に迂回ルートを設定し、利用者がいる場合に迂回ルートを走行するなど、需要に応じての弾力的なサービスを行ってみてはどうか。地下鉄、JR、西鉄電車、バスといった公共交通はそれぞれ競合している。しかし、ドイツでは、鉄道、路面電車、バスで全て共通して使える定期券は公共交通機関利用促進に重大な役割を果たしている。

(4) まとめ

日本でも公共交通機関同士が競合するのではなく、協力することでさらなる公共交通の利用促進につながると考えられる。バリアフリーやユニバーサルデザインを取り入れ、案内の充実、ICカードの導入をするなどの工夫をすることでより利用しやすい公共交通機関の提供ができると考えられる。また、それぞれの利点を活かした公共交通手段の組み合わせが利用者が利用しやすいものにしていくことも大事ではないか。具体的には、住宅地など人がたくさん集合する場所では、停留所や駅が600メートル以内に設置することで利用者にとってより利便性が増し、公共交通の利用促進につながると考えた。

また、路線バスや高速バスなどが高速道路を最大限利用することで、時間短縮や渋滞緩和につながると思う。しかし、諸外国と比べて、我が国の高速交通基盤の整備はまだまだ他の都市に比べると遅れている。これは人口や、所得の伸びに地域格差が生まれることにもつながる。それらを解消し、産業の活性化を図るためにも循環型交通のネットワークを形成し、各地域との交流、連携を促進する必要がある。それらを最大限に公共交通機関が活用することで、渋滞緩和、環境問題に配慮し、新たな交流の機会を創出することができ、地域の活性化にもつながると思われる。

公共交通機関の充実・活性化を図ることで、人が外に出かけたくなるような街づくりを行っていきたい。